

日本語音韻における音象徴の存在

丹野 眞智俊¹⁾

key words : 音象徴 清音 濁音 (半濁音)

日本語音韻における音象徴の存在 (I)²⁾

目的：オノマトペにおける音（韻）象徴の存在については、かなり確かめられている。しかしその研究にはSD法を適用したものが多く、この方法では使用する評定尺度の形容語に結果が左右されるようである。そこで日本語音韻の母音と濁音（半濁音）をもつ清音の音韻（50音）を用いて、それら各音韻の感じを言語表現（性状表現）する方法をとった。本報告では音韻に対する言語表現（性状表現）の総計を求め、その数の多い方から20位までを抽出し分析の対象とした。そして対象の言語表現（性状表現）の中に含まれる音韻を調べる。

方法：(1)被験者—大学生72人(2)材料—目的で述べた50音をランダムに配列したプリント(3)手続き—(2)を配布し、次のように教示した。「次の音韻を見たり聞いたりしたとき、どのような感じを受けますか？受けた感じを言葉（形容語）で表現（プリントに書いて）して下さい。」時間は、15分であった。(4)整理方法：言語表現（性状表現）の総計の多い方から20語の各語に含まれる音韻の種類を調べる。

結果と考察：Table 1は、その結果である。それでは、各形容語（以後、言語表現、性状表現を形容語という）について総計の多い順に見ていくことにする。{軽い} 23の音韻が含まれているところから、この形容語と対応する音韻の特定は、希薄である。特徴は、濁音が皆無であること、母音が少ないことで

Table.1 音韻と形容語との関係

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
形容語	軽い	苦しい	痛い	汚い	うるさい	明るい	小さい	強い	静かな	重い	あつい	長い
1	ふ	ぜ	ち	げ	が	ば	こ	ぜ	し	ど	じ	ず
2	た	う	つ	べ	ぎ	か	ち	だ	そ	ず	ぢ	じ
3	す	く	い	が	び	た	つ	ぐ	す	で	ひ	え
4	ぶ	ぎ	ち	ぺ	ざ	あ	び	ご	ざ	ぼ	ぼ	い
5	と	ぐ	て	ぶ	び	べ	べ	ぞ	が	ぎ	ふ	し
6	か	ず	ば	ぢ	ご	つ	う	お		ぜ	び	ぞ
7	へ	い	び	ぎ	だ	ば	て	ど		づ	ぺ	へ
8	て	が	が	ず	つ	び	と	は		ぼ	か	ご
9	そ	か	ぎ	ど	ぶ	ぎ	ほ	い		ぐ	ぎ	だ
10	び	じ	ぐ	び	き	せ	い	き		げ	ご	び
音数	23	15	24	14	17	18	18	19	5	17	19	22
13	14	15	16	17	18	19	20					
かたい	かわいい	はやい	寒い	きつい	細い	こわい	柔らかい					
こ	び	さ	ぞ	ぜ	せ	ぞ	ふ					
か	ぶ	ご	す	く	し	ひ	ほ					
き	べ	す	だ	う	く	か	い					
が	ば	だ	ち	が	す	ぜ	し					
ぎ	こ	た	ほ	か	そ	だ	う					
ぐ	ち	つ	い	づ	つ	ち	げ					
ご	と	て	さ	ど	き	て	け					
つ	く	と	び	は	い	ば	さ					
た	さ	き	ご	い	お	き	そ					
じ	で	い	は	つ	け	た	で					
23	14	20	10	15	17	10	20					

ある。{苦しい} 音韻数は、約3分1である。(＜軽い＞)と比較して総計で激減しているが、2, 3の音韻に集中し、すなわち<ze, u, ku>である。このことから、音象徴の存在が、これらの音韻にみられるのかもしれない。{痛い} この形容語に含まれる音員数は、20位の中ではもっとも多く24である。特定される音韻は、かなり難しいと思われる。{汚い} 音韻数は、少なく14であるが、濁音それもが行の音韻が多い。また<ge, be, ga>に集中していることから、ここらに音象徴がみられるようだ。{うるさい} 17の音韻があり、この形容語も濁音が多い、が行・ざ行・だ行音に集まっている。<ga, gi, bi>特に多い。{明るい} 16の音韻、その中でも<pa>の数が、3分の1ある。このことは、<pa>の音象徴の存在を暗示しているのかもしれない。清音・濁音(半濁音も含む)比は、半々である。{小さい} 音韻数18である。<ko, ti, tu, pi>の音が多く、半数である。<k, t, p>の子音に特徴があり、母音が4でている。{強い} 19の音韻があり、4割弱の比率となる。そのうち13は、濁音であり、(＜強い＞)イメージ(音象徴的)は、濁音の響きにあるかもしれない。{静かな} 5の音韻である。20位の中でもっとも少ない数で<si>に集中しているのでこれは、音象徴の存在、いえよう。特にさ行のみ、といっても過言ではない。{重い} は17の音韻で、<do>に集まっているし、濁音が15と大部分である。そういう意味でだ行あたりに特徴あり、とみたい。11位以降について形容語に対する音韻数の多いものを挙げてみよう。{かわいい} は、<pi>・{はやい} は、<sa>・{寒い} は、<zo>・{こわい} は<zo>・などである。これらのことは、今後検討したい。

日本語音韻における音象徴の存在(Ⅱ)³⁾

目的: 日本語(50音)の視覚・聴覚提示に対して、どのような言語(性状、感性など、以下言語という)的表現がなされるか、を実験し報告した('00. 3. '00. 11)。本報告では、言語的表現に対して、どのような音韻が印象(音象徴、以下音声象徴という)されるのか(音声象徴が存在するのか)、検討する。

方法: ①被験者—大学生(108人) ②材料—前報告の結果から、50音に対す

る言語的表現の一位の言語的表現（形容詞句）のみを整理したところ28語となり、これら28語を使用した。③手続き－言語的表現に対し、音声象徴される音韻を一つ書くように教示した。

結果と考察：音象徴の研究は、多くの研究者によってその存在が明らかにされているが、未だにその決め手はない。それは、音声象徴の研究が、オノマトペ {擬音（声）語・擬態語} を材料としなされてきたからではないか、と考える。なぜなら、オノマトペには、音だけではなく意味も含まれているからである。例えば、「かさかさ」であれば、「かさかさ」という音とともに枯葉の舞い散るイメージが共時的にわれわれの脳裡に浮ぶ。そうであれば“音韻”そのものの象徴が感じられることとなる。本報告は、上のような夾雑物を排除するために、“音韻”そのものを材料とした。そうすることで、“音韻”の象徴性を高めよう、と試みた。この種の研究は極めて少なく Hamano (1986)⁽¹⁾ を持って嚆矢とすべきであろう。Hamano は、音韻を個別に分けて、すなはち、子音、母音、撥音、促音について詳細に分析した。子音の閉鎖音 {p, {b}, {t}, {d}, {k}, {g} について述べる。{p, {b} は対で、これは物体をたたいたり、物体が破裂したりする不意の素早い動作にかかわっているとした。{t}, {d} も上記と同じような様子表現したものである。

また {k}, {g} は、たたく等の動作の音とかかわっている物体が金属のような極めて堅いものを表している、としている。これらの音声象徴存在の証明は、多くの日本文学の作品から抜粋した素材をもとに克明な分析によりなされた。一つの例を挙げるにとどめるが、本報告は、一層本質的に“音韻”だけにしぼったものである。Table 2 は、形容詞句と音声象徴とみられる音韻との関係を表したものである。28語全てに音声象徴の大小はあるが、上記二つの間に関係があることがわかった。第一位は“安心な－ほ”であり、第二位は、“可愛い－あ”である。前者は55.56%、後者は9.26%であり、両者には、大きな隔たりがあるものの音声象徴の存在が、28語全てにみられた。では、いくつか両者の関係を取上げ、考察を加えたい。“安心な－ふ”音声象徴関係は、明らかである。“ふ”という軽妙な音韻は、空中に {飛び、ゆったりと浮く感じを表し、

Table. 2 形容語句と音声象徴と見られる音韻との関係

	形容語句	音韻	数	率 (%)		形容語句	音韻	数	率 (%)
1	安心な	ほ	60	55.56	15	明るい	ば	24	22.22
2	静かな	し	53	49.53	16	うるさい	が	24	22.22
3	汚い	さ	42	38.89	17	恐ろしい	ひ	23	21.30
4	さわやかな	わ	35	32.71	18	暖かい	ほ	21	19.44
5	驚く	げ	34	31.48	19	軽い	ふ	21	19.44
6	嫌な	ち	33	30.56	20	細かい	す	19	17.76
7	小さい	す	30	28.85	21	寒い	ひ	19	17.76
8	涼しい	す	30	27.78	22	大きい	お	18	16.67
9	痛い	つ	29	26.85	23	恥かしい	ち	15	13.89
10	丸い	ま	27	25.00	24	遅い	の	14	13.08
11	苦しい	く	27	25.00	25	つよい	が	13	12.04
12	おかしい	は	27	24.07	26	突然な	わ	11	10.19
13	重い	ど	26	24.07	27	高い	き	11	10.19
14	暑い	む	25	23.15	28	可愛い	あ	10	9.26

安心な} に大きく傾斜している、といえよう。“静かなーし”は、他の報告でも（'00. 1）なしたように音声象徴大である。この二つの音声象徴は、他を圧している。“汚いーげ”は、擬音語 {げえげえ} からイメージされ、“汚い”の音声象徴がなされた、と考えられ、肯げるところである。“さわやかーさ”は、{さ行}の音韻 {風のさわさわと鳴る様など} と音声象徴されていることと相通ずるものである。“驚くーわ”は、擬態語 {わっ} と人を驚かす様子からの音声象徴であろう、と認めることができる。全ての考察には行きつかないが、かない r の音声象徴の存在がありといえよう。

日本語音韻における音象徴の存在（Ⅲ）⁴⁾

目的：日本語オノマトペにおける音（声）象徴に存在についてSD法を使用して研究を続けてきた。がその方法よりも一音韻を提示し、それに対して被験者の視覚・聴覚が受ける“感じを言語（性状）表現”する方法がより音（声）象徴の存在を証明できるのではないかと考えた。本報告は、この方法で実験した結果である。

方法：①被験者－（ア）学生（108人）（イ）教員（130人）②材料－前報告

Table. 3 形容語句と音声象徴と見られる音韻との関係 (学生と教員)

順位	形容語句	学 生		教 員		順位	形容語句	学 生		教 員					
		音 数	%	音 数	%			音 数	%	音 数	%				
1	安心な	ほ	60	55.56	ほ	94	72.31	15	明るい	ば	24	22.22	ば	63	49.22
2	静かな	し	53	49.53	し	78	60.00	16	うるさい	が	24	22.22	が	58	45.67
3	汚い	げ	42	38.89	げ	83	64.34	17	恐ろしい	ひ	23	21.30	ひ	23	17.97
4	さわやかな	さ	35	32.71	す	50	39.68	18	暖かい	ほ	21	19.44	ほ	41	33.06
5	驚く	わ	34	31.48	あ	33	25.38	19	軽い	ふ	21	19.44	ふ	16	10.85
6	嫌な	げ	33	30.56	げ	51	39.23	20	細い	す	19	17.76	し	23	17.97
7	小さい	ち	30	28.85	ち	46	45.10	21	寒い	ひ	19	17.59	す	33	25.38
8	涼しい	す	30	27.78	す	56	43.08	22	大きい	お	18	16.67	わ	30	23.44
9	痛い	っ	29	26.85	ち	24	18.46	23	恥ずかしい	ち	15	13.89	ち	21	16.41
10	丸い	ま	27	25.00	わ	41	32.03	24	遅い	の	14	13.08	ち	29	22.48
11	苦しい	く	27	25.00	く	37	28.46	25	強い	が	13	12.04	が	28	21.71
12	おかしい	は	27	25.00	は	21	16.94	26	突然だ	わ	11	10.19	わ	22	17.32
13	重い	ど	26	24.07	げ	51	39.23	27	高い	き	11	10.19	す	19	14.62
14	暑い	む	25	23.15	む	36	27.69	28	可愛い	あ	10	9.26	ま	26	20.00

(’00. 11) の結果から50音に対する言語表現の一位の言語表現 (形容語句) 28語を使用した。③手続き一 (ア) 言語表現 (形容語句) に対し音 (声) 象徴, と感じられる音韻を一つ書くように教示した。(イ) 50音を提示し28語の中から選択するように教示した。

結果と考察: Table 3 は, 被験者である学生と教員が28語対して感じた音韻の出現率 (ここでは音 [声] 象徴のことを言う) である。学生・教員間の音韻出現率に違いがみられる。これは, 実験方法の相違からきた結果であろうが, 全般的に言うと教員の出現率が高い。これは, 学生は, 28語に対し感じた音韻を自由に表現するのに比べ, 教員は選択法を採ったゆえであろう。限定した28語からの選択が音 (声) 象徴と言えるかどうかは異論のあるところである。被験者別に考えてみたい。(ア)学生: 一位は“安心な—ほ (55.56%)”で, 28位は“可愛い—あ (9.26%)”であり二者間に大きな隔たりがあるものの28語全てに音 (声) 象徴の存在がみられた, と言ってよいのではないか。(イ)教員: 一位は“安心な—ほ (72.31%)”で, 28位は“軽い—ふ (10.85%)”である。学生の結果と同じく28全てに音 (声) 象徴の存在がみられた, と言っても過言では

なかろう。ここでこれらの結果から音（声）象徴についていくつかピックアップし考察を加えたい。学生・教員の三位までは、同じ形容語句・音とも同じ順位である。“安心なーふ”の音（声）象徴関係は、明らかである。“ふ”と言う音韻は、われわれが視聴すると軽妙かつ飛ぶような感じを受け、“ふわりと空中に浮くような感覚を刺激する。そのような様態から”なにかしら“安心な”心理（気持ち）を誘発するにちがいない。次の“静かなーし”は、マンガなどで静寂の場面など“し～ん”や静かにすることを“し～っ”，口閉じる場合、口に指を置き“しっ.. しっ...”など動作で表現する。これらは、日常われわれが、茶飯事に使用していることである。三位の“汚いーげ”は、擬音語“げえげえ”の動作表現を連想したものであろう。また“げ”は子音・母音の組み合わせでなる音韻“GE”であり、母音“え”を含んでいる。この“Eえ”は、“日本語オノマトペの中でもっとも少ない”ことがわかっている。なぜかと言えばこの音には“汚い”というイメージがある、とのことである。この結果は、過去の報告と合致するものである。

日本語音韻における音象徴の存在（IV）⁵⁾

目的：日本語オノマトペにおける音（声）象徴の存在にSD法を使用して研究を続けてきた。が、その方法よりも一つの音韻を呈示し、それに対して被験者の視覚・聴覚が受ける“感じを言語（性状）”で表現する方法がより音（声）象徴の存在を証明するのに適切ではないかと考えた。その結果、刺激の音韻に対し、音（声）象徴ではないかと思われる言語（性状）を選択することで音（声）象徴の存在を探ることとした。

方法：①被験者－看護専門学校生（42人）。②材料－日本語音韻のオノマトペに関する一連の研究結果から音（声）象徴の多くみられる{音韻と言語（性状）表現}を28選択した。③手続き－28音韻に{音（声）象徴と感じられた言語（性状）表現}の上位5までを使用した。呈示した音韻に最も{音（声）象徴と感じられる言語（性状）表現}を選択させた。

結果と考察：Table 4 は、28の音韻に対し音（声）象徴として選択された各

Table.4 各音韻に対する音声象徴として選択された各言語（性状）の場合

音韻	あ 行		か 行		さ 行		た 行		は 行				
	お o	う u	く ku	こ ko	し si	す su	そ so	た ta	ち ti	つ tu	ひ hi	ふ fu	ほ ho
① 形容句	丸い	苦しい	苦しい	小さい	静かな	涼しい	静かな	軽やかな	痛い	痛い	恐ろしい	軽い	安心な
	0.00	52.38	42.86	21.43	78.57	50.00	9.52	11.90	14.63	9.76	30.95	17.95	16.67
② 形容句	驚いた	痛い	くやしい	固い	静寂な	軽い	軽い	明るい	小さい	小さい	怖い	柔らかな	落ち着いた
	40.48	33.33	38.10	26.19	19.05	7.14	0.00	2.38	9.76	29.27	0.00	5.13	57.14
③ 形容句	びっくりした	悲しい	きついい	丸い	長い	寒い	爽やか	軽快な	急な	赤い	弱い	暖かい	温かい
	45.24	2.38	14.29	14.29	0.00	4.76	11.90	42.86	41.46	26.83	50.00	10.26	11.90
④ 形容句	強い	きついい	楽しい	面白い	細い	爽やか	そっと	楽しい	小さい	悔しい	暑い	安心な	柔らかな
	9.52	9.52	4.76	11.90	2.38	35.71	66.67	35.71	4.88	29.27	11.90	28.21	11.90
⑤ 形容句	暖かい	寂しい	おいしい	堅い	柔らかい	静かな	優しい	大きい	丸い	短い	薄い	浮いた	ゆっくりな
	4.76	2.38	0.00	26.19	0.00	2.38	11.90	7.14	29.27	4.88	7.14	38.46	2.38
音韻	が 行		ざ 行		ば 行		だ 行		ぱ 行				
	が ga	ぎ gi	ぐ gu	げ ge	ず zu	ぜ ze	ぞ zo	び bi	べ be	ど do	ぱ pa	ぷ pu	ぽ po
① 形容句	うるさい	うるさい	苦しい	汚い	重い	苦しい	寒い	うるさい	汚い	重い	明るい	おかし	恥ずかしい
	59.52	33.33	58.54	23.81	21.43	12.20	12.50	29.27	41.46	76.92	52.38	34.15	73.81
② 形容句	汚い	苦しい	強い	気持ち悪い	長い	きついい	怖い	悲しい	意地悪い	低い	広い	小さい	可愛い
	11.90	21.43	0.00	47.62	19.05	9.76	25.00	26.83	31.71	12.82	0.00	21.95	2.38
③ 形容句	かたい	重い	遅い	嫌だ	遅い	強い	恐い	痛い	幼い	大きい	輝いている	面白い	明るい
	9.52	7.14	21.95	19.05	14.29	4.88	15.00	17.07	7.32	2.56	26.19	19.51	16.67
④ 形容句	暗い	固い	固い	おどろく	汚い	息苦しい	恐ろしい	汚い	狭い	強い	かわいい	可愛い	軽い
	0.00	16.67	9.76	9.52	28.57	73.17	47.50	24.39	6.98	2.56	14.29	4.88	2.38
⑤ 形容句	勢いが良い	古い	のろい	重い	苦しい	重い	強い	小さい	平たい	多い	すぐに	楽しい	間の抜けた
	19.05	21.43	9.76	0.00	16.67	0.00	0.00	2.44	11.63	5.13	7.14	19.51	4.76
%													33.33

言語（性状）のパーセントである。各音韻ごとの考察をする前に音韻に対する言語（性状）の中味を詳しく発想法的にみてみよう。“お”－{びっくりした・驚いた・強い}は、<驚く（他の2つの言語は、驚くという意味内容の中に含まれる：他の音韻の場合も同じである）>，“う”は、{苦しい・痛い・きつい}は、<苦しい>に，“う”－{苦しい・くやしい・きつい}は、<苦しい>に，“こ”－{堅い・固い}は、<かたい>に，“し”－{静かな・静寂な・細い}は、<涼しい>に，“そ”－{そっと・爽やか・優しい・静かな}は、<そっと>に，“た”－{軽快な・楽しい・軽やかな}は、<軽快な>に，“と”－{急な・丸い・軽い}は、<急な>に，“ひ”－{弱い・恐ろしい・恐い}は、<弱い>に，“ふ”－{浮いた・安心な・軽い}は、<浮いた>に，“ほ”－{落ち着いた・安心な・温かい}は、<落ち着いた>に，“が”－{うるさい・勢いが良い}は、<うるさい>に，“げ”－{気持ち悪い・汚い・嫌だ}は、<気持ち悪い>に，“ず”－{汚い・重い}は、<汚い>に，“ぜ”－{息苦しい・苦しい・きつい}は、<息苦しい>に，“ぞ”－{恐ろしい・恐い・怖い・寒い}は、<恐ろしい>に，“ど”－{重い・低い}は、<重い>に，“ぱ”－{明るい・輝いている}は、<明るい>に，“び”－{可愛い・小さい}は、<可愛い>に，“ぶ”－{おかしい・面白い・楽しい}は、<おかしい>に，“ぼ”－{恥ずかしい・間の抜けた}は、<恥ずかしい>に集約できる（<>内の言語の検討は必要だが）。“ち”，“つ”，“ぎ”，“ぐ”，“び”，“べ”などの音韻は、一つの言語に集約できなかつた。しかし第一位の言語の選択率が高い。このように見ていくと28音韻全てに音（声）象徴が認められる、と考える。

- 1) 神戸親和女子大学 児童教育学科
- 2) 日本心理学会 第64回大会発表（京都大学）
- 3) 九州心理学会 第61回大会発表（九州大学）
- 4) 日本心理学 第65回大会（筑波大学）未発表
- 5) 九州心理学会 第62回大会発表（佐賀医科大学）

引用文献

- (1) Shoko Hamano 1986 The Sound-Symbolic System of Japan Ph.D. dissertation. university of Frolida

参考文献

- 1) 浅野鶴子編 1978 擬音語・擬態語辞典 角川書店
- 2) 笥 壽雄, 田中育啓編 1993 オノマトピア・擬音・擬態語の楽園 勁草書房
- 3) 苧阪直行 1999 感覚のことばを研究する 新曜社
- 4) 田守育啓, ローレンス・スコウラップ 1999 オノマトペー形態と意味ー
- 5) 田守育啓 2002 オノマトペ 擬音・擬態語をたのしむ 岩波書店